第13回厚生政策セミナー

「新しい社会保障の考え方を求めて」
ー医療・介護等の分野へ、準市場・社会市場からのアプローチと検証ー

パネル討論資料

金子能宏
国立社会保障・人口問題研究所

ルグラン教授の報告

- 準市場の視点：政府予算・社会保障財源を活用した医療サービス提供における諸問題の解決

- 政府予算方式と出来高払い制
- 医師等の専門家のインセンティブ←利他的動機付けに依存することの検証
- パフォーマンスの計測と経営管理←医療サービス提供の当事者達の声(Voice)の重要性と諸問題
- 選択と競争
- 社会民主的な課題への挑戦

京極所長の報告

- 高齢化と介護費用に関する指標の国際比較

- 社会市場･混合市場の理論と準市場の理論の位置づけ
- 社会市場･準市場の理論からみた介護サービスの需給に関わる諸問題の整理と分析

- 社会市場と経済市場の交わりである混合市場における介護保険の位置づけ
- 経済市場との関わりを通じた介護保険の国民経済への影響

医療・介護サービスに関する理論分析を応用する際の留意点①

- 理論的分析の前提
  －精緻な分析・普遍的な分析のための必要性－
  VS－現実妥当性－

- 前提に関わる現実の諸問題とは何か？
  －高齢化の進展の国別の相違
  －高齢者の世帯構造・貯蓄行動などに見られる自助・共助の国別の相違
  －高齢者の地理的分布（地域差）
  －高齢者の所得・資産格差、などなど。

制度的補完性の成立のインセンティブ

- 現実世界において、戦略のマッチングをより低い計算・取引費用で実現するため、互いに補完性をもった戦略を「ルール」として強制するメカニズムが発生する。
- そうしたルールは、暗黙のうちに守られる慣習や道徳的規制という形態を取ることもあれば、法律的な強制力を持った明示的な制度という形態を取るということもあろう。
- 制度の生成を進化ゲームにおける補完的戦略のルール化と見ることができる。複数均衡の存在に伴って、複数の制度体系の生成がありうる。
- 生成の動因となった戦略的補完性に対応して、制度体系の各要素は互いが互いを強め合う性質を有するようになる（制度的補完性）。
- ゆえに、制度体系はいったん生成すると、環境変化に対して一定の頑健性を持つ。

（青木昌彦『経済システムの進化と多元性—比較制度分析序説』）

医療・介護サービスに関する理論分析を応用する際の留意点②

- 理論分析を応用する対象となる制度の歴史的経緯と国別の特徴

  →OECD諸国の比較分析の重要性

- 社会市場・準市場と経済市場の関係

  ーもう一つの見方：制度的補完性

  ←比較制度分析(comparative institutional analysis)←青木昌彦・スタンフォード大学教授が提唱し、ゲームの理論と実証分析の応用により発展ー

医療・介護サービスにおける格差問題への対応の例
－準市場・混合市場から見て興味深い日本の例－

- 社会保険方式を中核とする日本の医療保険・介護保険における財政調整の仕組み

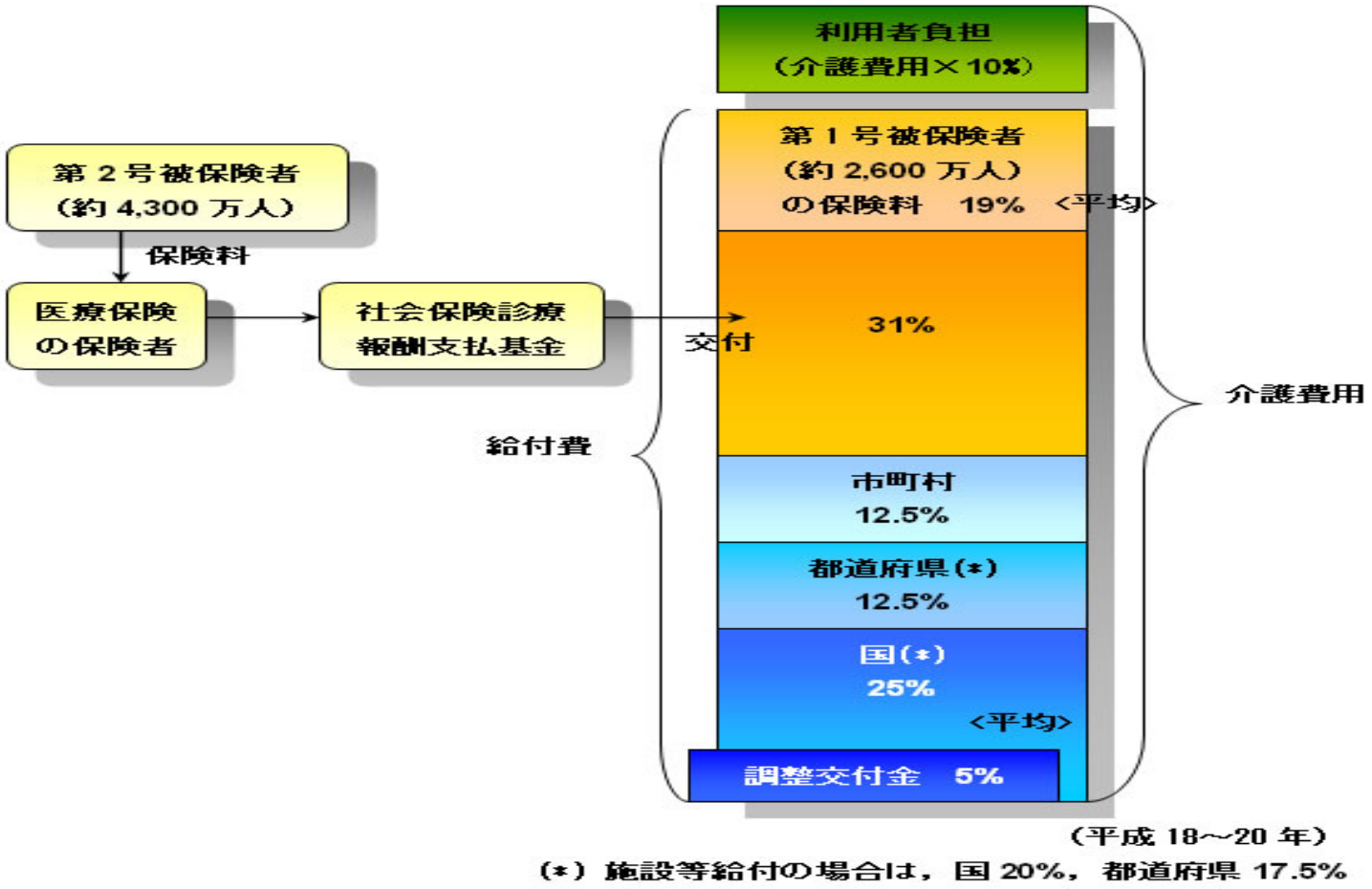
－（老人保健制度における複数の保険者からの拠出金による財政調整）

－国民健康保険における公費による財政調整

－介護保険における公費による財政調整

- 医療・介護保険における財政調整と各保険者の保険者機能維持に対するインセンティブ

図 1．介護保険制度の仕組み



出典：健康長寿ネットhttp://www.tyojyu.or.jp/hp/ 「介護」“介護保険財政”